

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175100898		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメントコミュニティ		
事業所名	新座グループホームそよ風		
所在地	埼玉県新座市堀ノ内1-3-32		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	令和5年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2		
訪問調査日	令和5年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度もコロナ禍が続き制限のある生活でしたが、各ユニットごとに、レクリエーション等で日々の生活が楽しくお過ごしいただける様、対応してまいりました。
 自立支援の観点から、ご自身で行える事をご自身で行っていただき、役割や生きがをもつ生活していただける様、支援してまいりました。
 面会がまだ思うように行かない状況ではありますが、生活の様子や医療面、認知症の変化など、「そよ風たより」としてご家族様に送付しご確認いただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 法人内隣隣事業所とは連携を図り、ワンストップサービスの実現により地域ニーズへの対応がなされています。法人の変更後も更に連携を深めていく意向をもっています。
- 心身の機能維持のほか、レクリエーション等楽しみを目標設定にすえるようところがけられてプランが策定されています。笑顔・元気・多様性が根底にあるよう支援が展開されています。
- 職員の支援状況については留意しており、適切な接遇となるよう指導に努めています。特にハラスメントの研修を事業所内研鑽に取り入れるなど職員の資質および支援の質向上に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「世界で一番、仲間を大切にできるチームであり続ける」という理念は、お客様へのサービス品質がよい事は当たり前とし、働く仲間、介護業界で働く仲間を大事する事が掲げられている事を共有している。	パンフレット・ホームページを通して理念の周知に努めている。緊急時・単独外出対応、虐待防止などの方針についても事業所内の掲示を通して取り組みや徹底を理解することができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの関係もあり、地域の交流は限定的なものとなってしまっている。	新型コロナウイルスの影響により地域交流の中断・縮小がなされている。近隣事業所とは連携を図り、ワンストップサービスの実現により地域ニーズへの対応がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に管理者が介護相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も書面開催にて活動内容の周知、ご意見をいただいている。	新型コロナウイルスの影響により書面開催にて代替している。ホームの様子や状況を報告し、関係継続に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	マスクや消毒薬の配布があった際、簡単な状況報告を行った。	新型コロナウイルスへの対応については報告等にて連携がなされている。利用者の生活保持に対して連携するよう連絡・相談等に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な社内研修の実施を行い、身体拘束を行わないケアの実践している。	身体拘束の廃止、虐待・ハラスメント等の研修が実施されている。適切な支援実施のため、職員への指導と研鑽にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、社内研修や定期的な職員との面談、ストレスチェックを行うなど対応をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を通じて定期的に権利擁護について学び職員で情報共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時、ご家族様へ十分な時間を設け丁寧な説明を心掛けている。また、気軽に質問を行える信頼関係を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委推進会議や日々のご家族様への連絡・相談の中からニーズを拾い上げ、会議際、情報共有を行っている。	多数・多様な写真の掲載と個別の状況報告にてたよりが送付されている。面会についても柔軟に対応し、家族の要望や不安に寄り添っている。	新型コロナウイルスの分類変更等に伴い面会の緩和を予定している。周辺状況、利用者・家族の意向等を勘案し、実施されることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との業務についてのコミュニケーションや連絡ノートの活用、会議等で意見を反映させている。	フロア会議にて利用者の状態の共有を図っている。居室担当職員からの意見を集約し、ケアプランの策定や周知にあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個別面談の実施を行い評価をおこなっている。モチベーションアップに繋がる対応を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や面談時、個人の目標に向かっての達成状況を確認しあっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新座市内にある同法人のグループホーム事業所と情報共有を行いサービス品質の向上につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の聞き取りを丁寧に行う事により、安心して生活が行える様、介護計画書へ落とし込みを行いフロア職員と共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、入居前の実態調査、入居初期にご本人様やご家族様のお困りごと等を丁寧に聞き取り、計画作成担当者ならびにフロアリーダーと連携をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、ご本人様の状況把握につとめ、今必要なサービス、今後必要とされるサービスなども説明を行い安心してご利用いただける様、つとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を意識し、出来る事はご自身で、困難な事は、さりげなく支援を行い共に生活している関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	回数や時間など限定されている状況ですが、かぎられたタイミングなどで面会など行っていただき職員だけでなくご家族にもご協力や支援をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろん、親族や友人の来訪を通して、馴染みの関係維持につとめている。	体操・レクリエーションなど習慣を活かしながら利用者の元気な生活をサポートしている。利用者それぞれの個性・特性・こだわり・習慣を活かせるよう支援の検討に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内で役割をもって生活いただいている事により、自然に利用者同士の関係も構築されている。時には職員の介入等を行いコミュニティの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	残念ながら、ご退去となってしまったご家族様より、最近の近況をご連絡いただく事がある。時にはそのご家族様の相談等にも応じて切れぬ関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は特に丁寧に聞き取りを行う。また定期的にご本人の思いをお聞きし介護計画書に反映させている。	アセスメント・モニタリング・支援経過などの書式が整備されており、業務システムの活用によりタイムラグのない支援が実現している。利用者の意向を把握し、フロア会議等での確認により支援への反映にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまで生活されてきた生活歴をご本人様やご家族様へ聞き取りを丁寧に行う事により、よりご本人様が望む生活に近く支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に行っているフロアミーティングやミニカンファレンスを通じて職員同士でご本人様の現状や困難になってきている事柄を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話での連絡をご家族様に行う際、ご意見をいただき介護計画書に反映させている。	心身の機能維持のほか、レクリエーション等楽しみを目標設定にすえるようこころがけられてプランが策定されている。笑顔・元気・多様性が根底にあるよう支援が展開されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡ノート、朝・夕れを通じて現在のご本人様状況を把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状の職員体制において、既存のサービスの範疇を超えて支援する事は難しい状況。なるべくご本人様、ご家族の要望を取り入れたサービスの導入を検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響もあり、外出等が規制されている状況であるが、時期をずらした紅葉見学や初詣、近隣の社会資源を活用し生活いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望に応じ、かかりつけ医の継続などおこなっている。また、往診に関してはご家族のご協力を仰ぐ事がある。	内科、精神科等利用者に必要な受診体制が構築されている。医療機関へは状況の変化など細かな報告をこころがけ、穏やかな生活への反映に努めている。	利用者の重度化等への対応として緊急時対応、受診対応の向上に取り組んでいる。指導継続の成果や職員成長の確認・分析等実施が望まれる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師配置は行っていない状況であるが、協力医療機関や往診クリニック看護師との連携を適宜行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院先やご家族様との情報共有を丁寧に行い、退院に向けた支援を行っている。また、グループホームでの生活が困難な状況の際、往診クリニック等と協力し医療機関への転居・転院の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状況を職員だけではなく、ご家族や医療機関との情報共有を行い、今後想定される終末期等の対応について早い段階から話し合いを行うようにつとめている。	法人共通の重度化と終末期の支援方針が策定されており、入居時等での説明にあたっている。今後は医療連携体制加算の取得等更なる健康管理の充足を目標としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応方法については、リアルタイムで口頭での指導が中心。対応できる職員のスキルにバラツキがあるため、会議等で対応方法を伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の規定通りの実施を行っているが、地域との協力体制が不十分であると感じている。	コロナ禍にあっても定期での避難訓練の実施と報告がなされている。フロアが3つに分かれていること、利用者の状態等の確認をし、リスクの把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの際、苗字でお呼びし排泄誘導の際など、プライバシーに関する事はその方が聞こえる程度の声でお伝えし誘導を行っている。	職員の支援状況については留意しており、適切な接遇となるよう指導に努めている。ハラスメントの研修を事業所内研鑽に取り入れており、職員の資質向上にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を促す様、選択肢を用意していた声掛けなどを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを壊さない程度にご自身の日課や行いたい事などを行っていただく支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は朝、ご自身で着たい洋服を選択していただいたり、楽しみをもって一日を過ごしていただく様に支援している。行事やお祝いの際、普段着とは違う正装を着用いただくなど、メリハリをつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食形態がミキサー食の方など、食事の際、料理名をお伝えするなど、食が進む声掛けを行っている。配膳・下膳等、行える方には積極的にお手伝いをお願いしている。	利用者の意向・状態を把握した食事提供に取り組んでいる。利用者の変化をとらえ、食事だけでなく支援全般を見守るよう心がけられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など、一日トータル摂取量を確認できる状態となっており、摂取量は業務引き継ぎ申し送り等も行っている。不足しがちな方へは、ママなお声がけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを推奨し、困難な方はいがいや口をゆすいでもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあった排泄パターンや時間などを職員で共有し、定期的な排泄介助やお声がけをしている。	適切な記録に努めており、写真等を医療機関への正確な相談等に活用している。利用者の経歴・病歴等を確認し、一人ひとりに適した支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤等使用しない自然排泄をめざしている。排泄が滞る際、医師と相談し、ご本人の身体に負担のかからない容量から行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は日中からお湯張りされており、ご本人のタイミングなどを考慮しお声がけ入浴いただいている。入浴剤の使用やリラックスしてバスタイムを楽しんでいただいている。	入浴を拒否する場合には、職員や日課を変更するなど工夫した取り組みがなされている。浴槽が2つある特徴を活かし、快適さと効率を考慮したケアに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の湿度や温度など環境設備につとめ安眠できる様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は職員が注意深く効能や副作用等の把握につとめている。変更の際は連絡ノートや申し送りを活用して情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方、その方の趣味や趣向を把握し、その方にあった余暇の時間を楽しんでいただく様、心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの流行により、外出支援が滞っている状況。	新型コロナウイルスへの対応緩和を考慮しながら外出支援を進めている。検討し、買い物・散歩など利用者のストレスを和らげるよう対応にあたっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活歴でこれまで一家のお財布を預かっていた方には、必要に応じて持っていていただく支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込まれている方もおり、気軽にご家族様とお話できる環境もある。また、定期的にご本人からご家族様宛にお手紙を書かれている方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの装飾品など、季節に合わせたものとなっており、季節の移り変わりを感じて頂く環境作りを行っている。	色とりどりの装飾が利用者により制作されており、フロアや廊下を華やかにしている。共有空間と個別空間のバランスが図られたレイアウトとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他、仲のよい入居者様同士や一人で過ごせる環境作りをお心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にこれまで使用していた物や思い出のある物、ご家族様との写真などを配置していただく様、お伝えしている。	居室には一人ひとり名札が掲示されており、プライベートな空間を認識できるよう整備されている。居室担当職員により手紙の送付、衣類の整理、誕生日会の開催などがなされており、一人ひとりを見守る体制となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には個々のネームプレートを作成し、わかりやすくなっている。トイレやその他の設備も安全に使用できる様にしてあり、困難な方には声掛けや見守りを行い自立支援のもと介護を行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	新型コロナウイルスの分類変更等に伴い面会の緩和を予定している。周辺状況、利用者・家族の意向等を勘案し実施されることが望まれる。	地域に開かれたセンター作りの再構築を目標とする。	新型コロナウイルスの分類変更に伴い自粛していた面会や地域との交流を正常化させ、地域に根付いたセンターを目指す。	12ヶ月
2	30	利用者の重度化等への対応として緊急時対応、受診対応の向上に取り組んでいる。指導経験の成果や職員成長の確認・分析等実施が望まれる。	医療面が弱いグループホームにて利用者様が健康で安心して生活出来る環境の維持と改善を行う。	夜間等の救急対応方法の周知徹底を継続して行うと共にご家族様へ医療連携体制加算取得の必要性を説明し同意をすすめていく。	12ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。